

20. 下高根沢 7-1 の遺跡

下高根沢 7-1 は芳賀町の北側中央部に位置し、宝積寺台地東方の沖積地である河沢沿岸の地に由来する地名のように下高根沢地内の西側は宝積寺台地に立地し、東側は野元川・五行川が南流する五行川低地にある。本地区は五行川低地上に立地している。

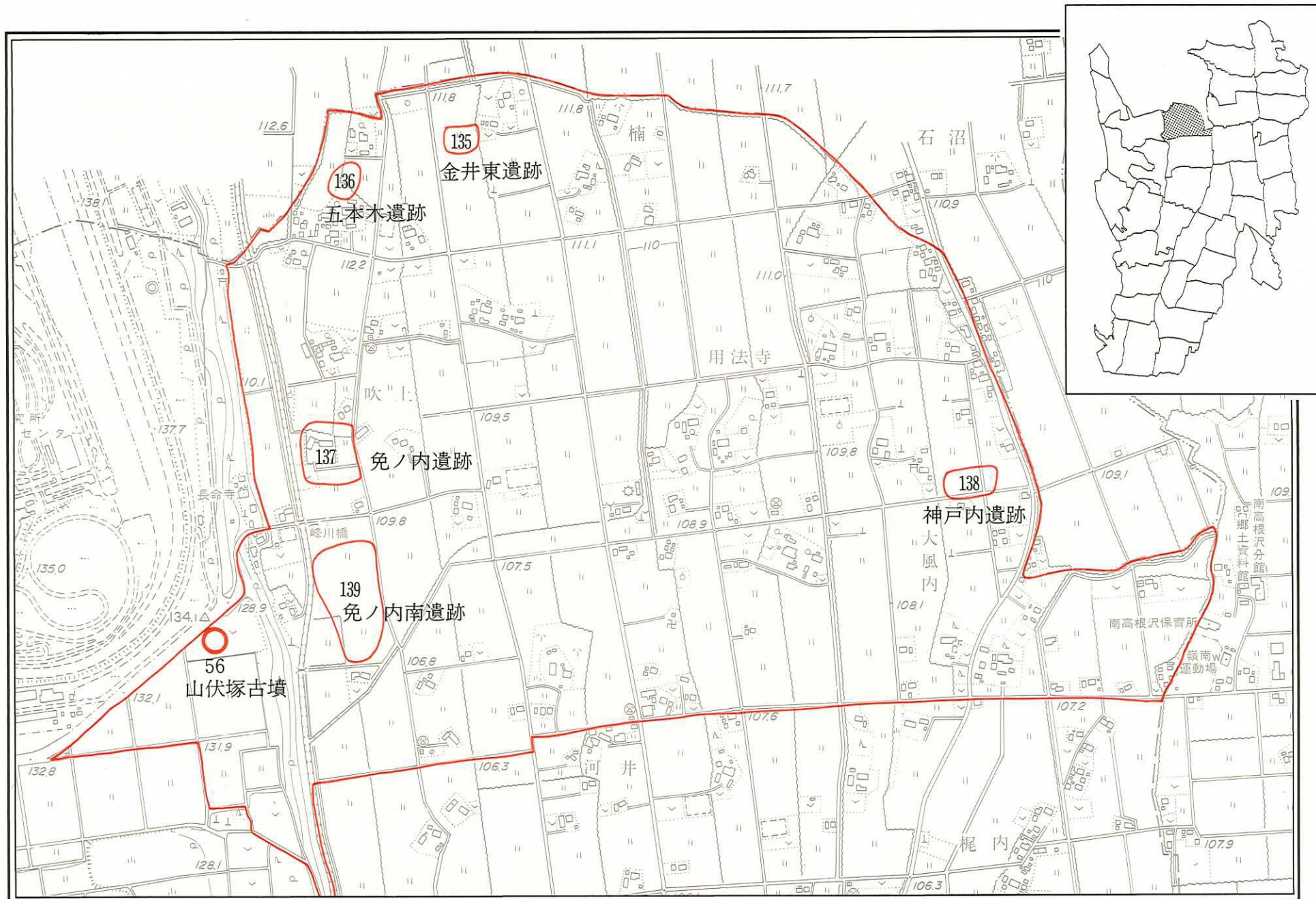
本地区には周知の遺跡としては山伏塚古墳のみであり、新発見の遺跡として金井東遺跡・五本木遺跡・免ノ内遺跡・神戸内遺跡・免ノ内南遺跡の 5 遺跡がある。

山伏塚古墳は直径 18m、高さ 5.4m の円墳である。墳頂には稲荷社が祀っており、墳丘裾部は削土され原形を保っていない。(埴 1983)

新発見の遺跡はいずれも縄文時代に属するもので、一部に古墳時代を含むものがある。縄文土器は阿玉台式、加曽利 E 式のものが見られ、中期に属するため、本地区の西側にある下高根沢 7-5 の宝積寺台地に立地する縄文時代中期の袋状土坑群が発見された金井台遺跡(埴・田代 1970)、縄文時代中期の土器を採集した長命寺台遺跡、縄文時代中期の竪穴住居、土坑群が発見された高根沢町上の原遺跡(青木 1981) など大規模な中期の遺跡と関連して形成されたと推定される。

(塩谷慎介)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
56	山伏塚古墳	下高根沢字山伏塚				○				古墳	台地	畑
135	金井東遺跡	下高根沢字金井東2719他		○						散布地	微高地	田
136	五本木遺跡	下高根沢字五本木2699、2703他		○						集落跡	微高地	田
137	免ノ内遺跡	下高根沢字免の内2661～2662-1、2985-1、2987-1		○						散布地	微高地	田
138	神戸内遺跡	下高根沢字神戸内2307-2		○		○				散布地	微高地	田
139	免ノ内南遺跡	下高根沢字免の内2488～2493		○		○				集落跡	微高地	田



下高根沢7-1の遺跡分布図

21. 下高根沢 7-2 の遺跡

下高根沢 7-2 は、芳賀町の中央北よりにあたり、五行川の支流野元川の流域からその西方の宝積寺台地にかけて位置する。現状はほとんどが水田となっている。

今回の調査の結果、本地域には次の 13 遺跡の存在が確認された。西大風内西遺跡・宮田北遺跡・堀向遺跡・梶内北遺跡・梶内南遺跡・梶内前遺跡・六斗蒔遺跡・海老内遺跡・栗島遺跡・高田遺跡・高田南遺跡・西川端南遺跡・篠ノ内遺跡がそれである。以下に詳細を述べたい。

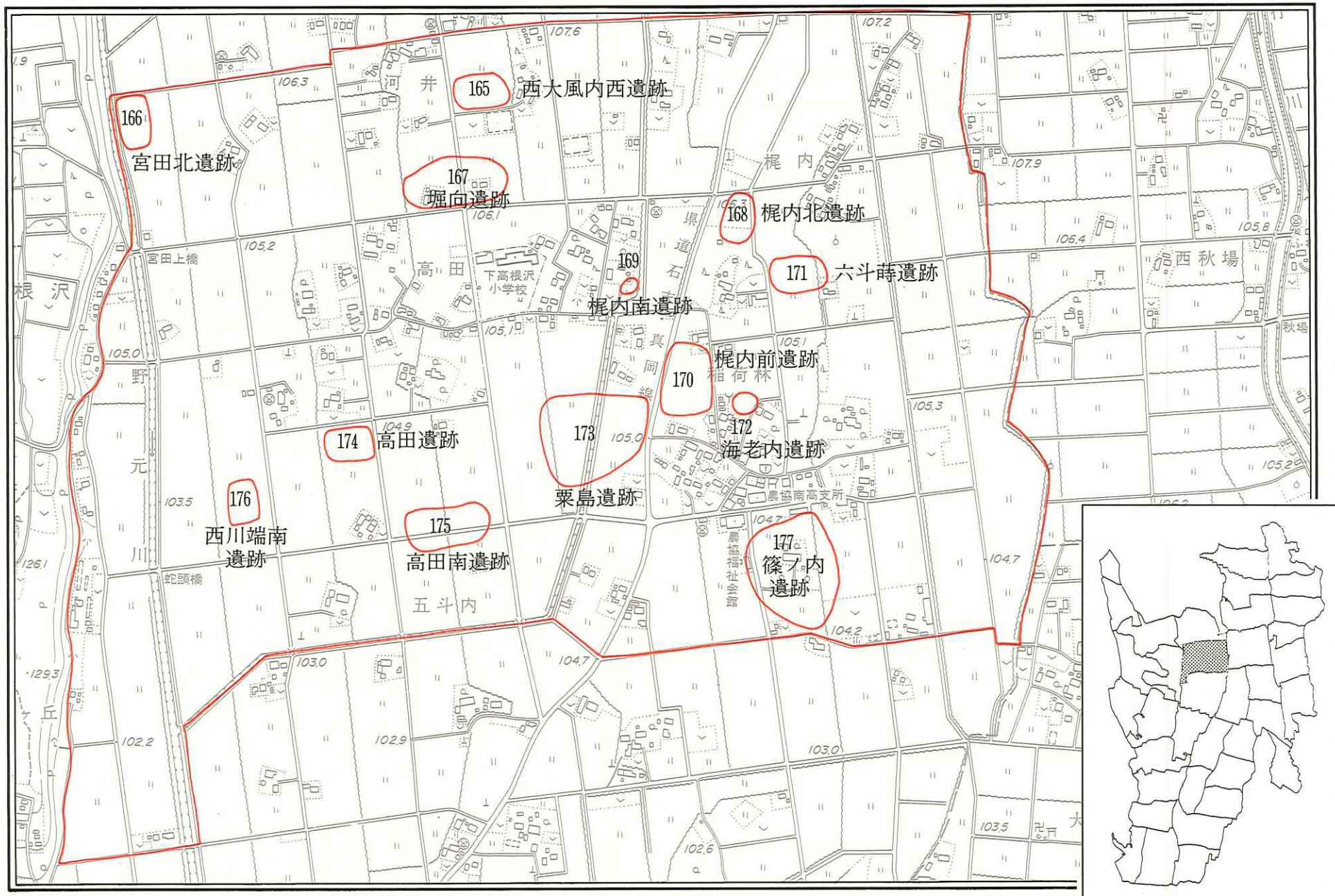
遺跡の多くは野元川左岸の低地および微高地上に位置している。堀向遺跡・海老内遺跡・栗島遺跡・高田遺跡・高田南遺跡・篠ノ内遺跡では縄文中期の土器片を採集している。特に栗島遺跡では他の遺跡に比べ多量の縄文土器片が採集できた。遺跡の範囲も広範囲にわたっており、大規模な集落の可能性も考えられる。また、土師器片も確認されている。なお、梶内前遺跡は栗島遺跡と連なる集落跡の可能性もある。本地域は他地域に比べ縄文時代の遺跡が多いのが特徴である。

西大風内西遺跡・宮田北遺跡・梶内北遺跡・西川端南遺跡・六斗蒔遺跡では少量の土師器片が採集できた。

なお、本地域では区画整理され地形の改変を受けている遺跡が多く、宮田北遺跡・堀向遺跡・六斗蒔遺跡・高田遺跡・高田南遺跡・西川端南遺跡で採集された遺物は耕地整理の際の混入の可能性も考えられる。

(大島美智子)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
165	西大風内西遺跡	下高根沢字西大風内1878				○				散布地	低(湿)地	畑
166	宮田北遺跡	下高根沢字宮田1809-1～1811-2				○				散布地	低(湿)地	田
167	堀向遺跡	下高根沢字堀向2602-2付近		○						集落跡	低(湿)地	田・畑・宅地
168	梶内北遺跡	下高根沢字梶内1266				○				散布地	低(湿)地	田
169	梶内南遺跡	下高根沢字杉並1671		○					○	散布地	低(湿)地	田
170	梶内前遺跡	下高根沢字梶内前1254-1他		○		○				散布地	低(湿)地	畑・宅地
171	六斗蒔遺跡	下高根沢字六斗蒔1272					○	○		散布地	微高地	田
172	海老内遺跡	下高根沢字海老内1234-1		○						散布地	低(湿)地	田
173	栗島遺跡	下高根沢字栗島1407～1420他		○		○				集落跡	低(湿)地	田・畑・宅地
174	高田遺跡	下高根沢字高田1593、1594		○						散布地	微高地	田
175	高田南遺跡	下高根沢字高田1618～1620		○						集落跡	低(湿)地	田
176	西川端南遺跡	下高根沢字西川端1564-1他				○		○		散布地	低(湿)地	田
177	篠ノ内遺跡	下高根沢字篠ノ内1158-1他		○						集落跡	低(湿)地	田・宅地



下高根沢7-2の遺跡分布図

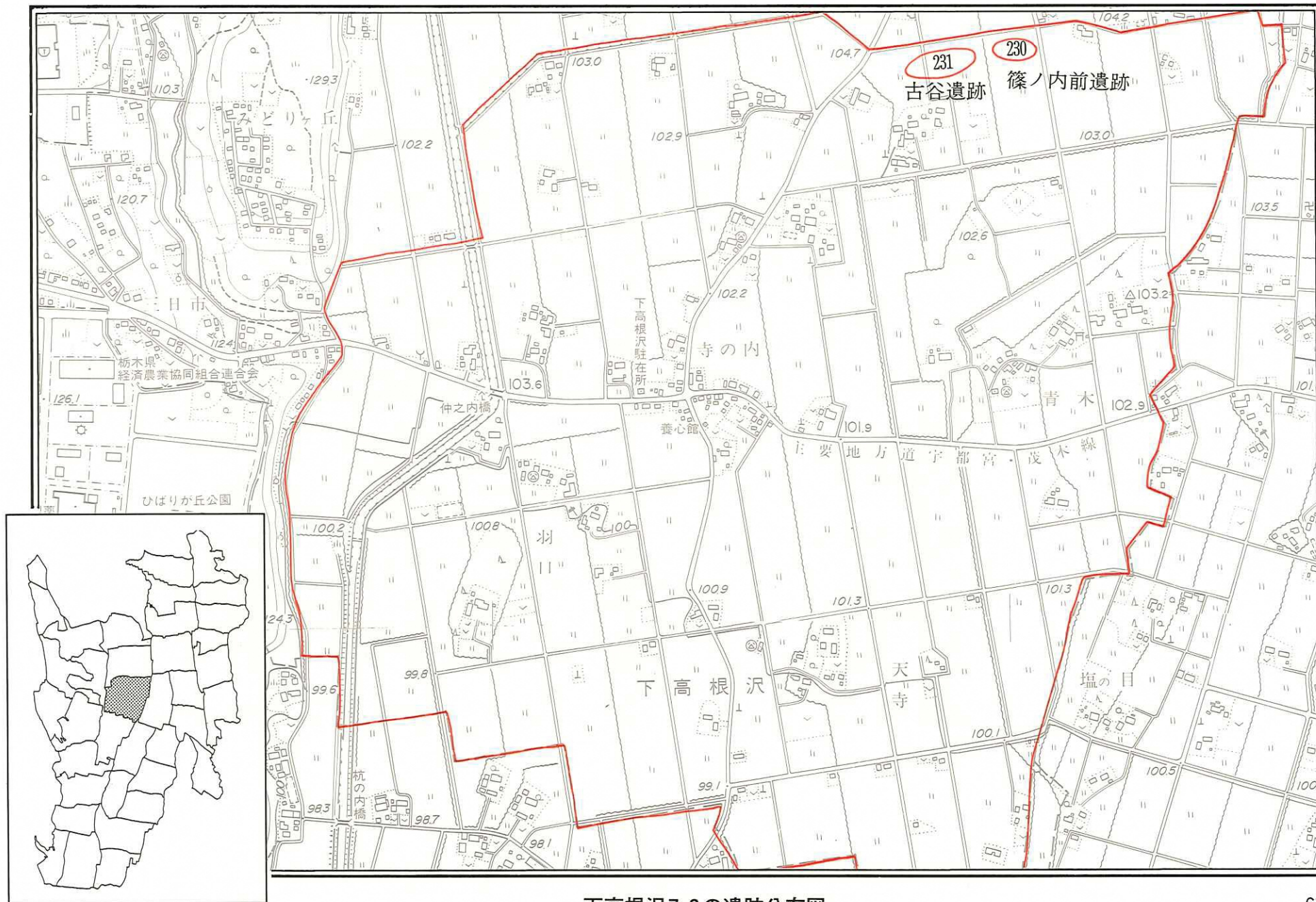
22. 下高根沢 7-3 の遺跡

下高根沢 7-3 は芳賀町域の北部にあたり、五行川と野元川に挟まれた五行川低地に位置する。西側は宝積寺台地に接する。大部分は水田として利用されている。本地区には周知の遺跡は確認されておらず、今回の調査で 2 遺跡を確認した。

新たに発見されたのは、篠ノ内前遺跡・古谷遺跡である。これら 2 遺跡は、ともに野元川左岸の微高地上に立地し、土師器細片が少量散布するのみである。時期について詳細は不明である。位置も近いため、同一の遺跡として整理するのが妥当かもしれない。また、五行川低地に存在する他の遺跡同様、開田の影響も考えられ、遺物はその分布の薄さから、客土中のものである可能性も考えられる。

(平久保直希)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
230	篠ノ内前遺跡	下高根沢字篠ノ内前1030、1031				○	○			散布地	微高地	田
231	古谷遺跡	下高根沢字古谷1011・1018				○	○			散布地	微高地	田



下高根沢7-3の遺跡分布図

25. 下高根沢 7-6 の遺跡

下高根沢 7-6 は芳賀町域の北西部にあたり、野元川右岸の宝積寺台地に位置する。西側は宇都宮市と接している。本地域の中央には野元川の支流谷津川による開析谷が入る。大部分が御料牧場となっており、谷津川沿いが水田として利用されているほかは、畑地が多い。

本地区には不動塚古墳（大塚古墳群）が周知の遺跡として存在し、今回新たに、虚空蔵山遺跡・小峯北遺跡・上山神北遺跡・上山神南遺跡・小峯南遺跡の5遺跡を確認することができた。

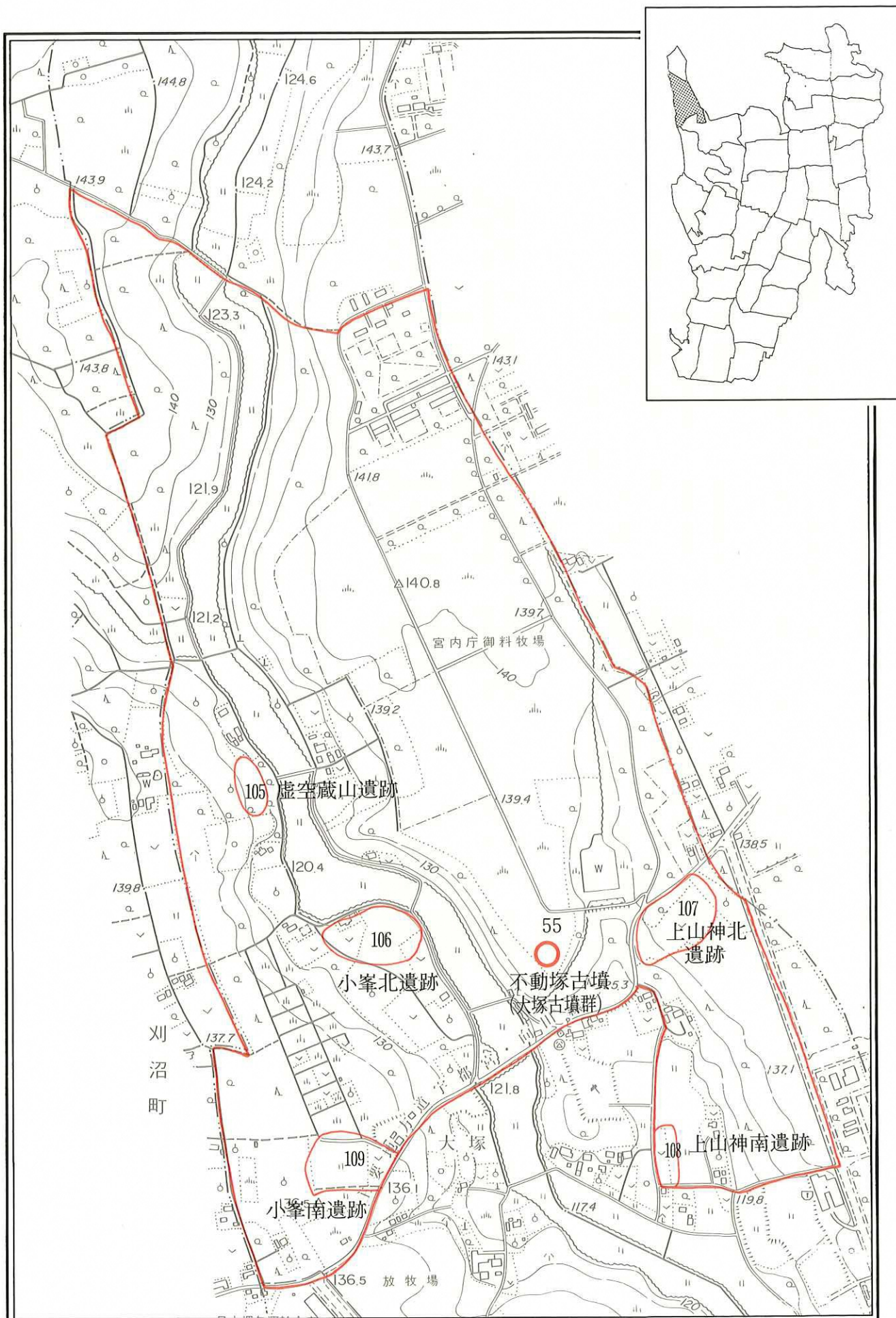
不動塚古墳は、現在御料牧場敷地内に保存されている。直径 25m、高さ 4.5m の円墳で、江戸時代に発掘され、横穴式石室の奥壁石を不動尊として祀っている。後期古墳に位置付けられる。他に2基の円墳が現存し、古墳群を形成する。地元では大塚古墳群とも呼ばれる（埜 1983）。

虚空蔵山遺跡は、小支谷を東に臨む斜面上に立地する。縄文時代早期と考えられる土器片1片が採集されたのみであり、遺跡の広がり是不明である。

小峯北遺跡は、水田面との比高約 5m の舌状台地に立地する。採集された遺物は土師質土器が中心だが、散布状況は薄い。また、南側の小峯南遺跡が本遺跡に類似している。上山神北遺跡では縄文土器が少量採集されているが、前期のものと考えられる。上山神南遺跡は、西に谷を臨む台地斜面上に立地する。弥生土器が採集されているが、細片であり、遺跡の広がりについて詳細は不明である。

（平久保直希）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
55	不動塚古墳 （大塚古墳群）	下高根沢字大塚不動山				○				古墳	台地	山林
105	虚空蔵山遺跡	下高根沢字虚空蔵山5338-4		○						散布地	台地	山林
106	小峯北遺跡	下高根沢字小峯5285-1～3他						○		散布地	台地	果樹園
107	上山神北遺跡	下高根沢字上山神5259他		○						散布地	台地	畑
108	上山神南遺跡	下高根沢字上山神5207-1			○	○				散布地	台地	畑
109	小峯南遺跡	下高根沢字小峯5134-1、5120他						○		散布地	台地	畑・宅地



下高根沢7-6の遺跡分布図

26. 下高根沢 7-5 の遺跡

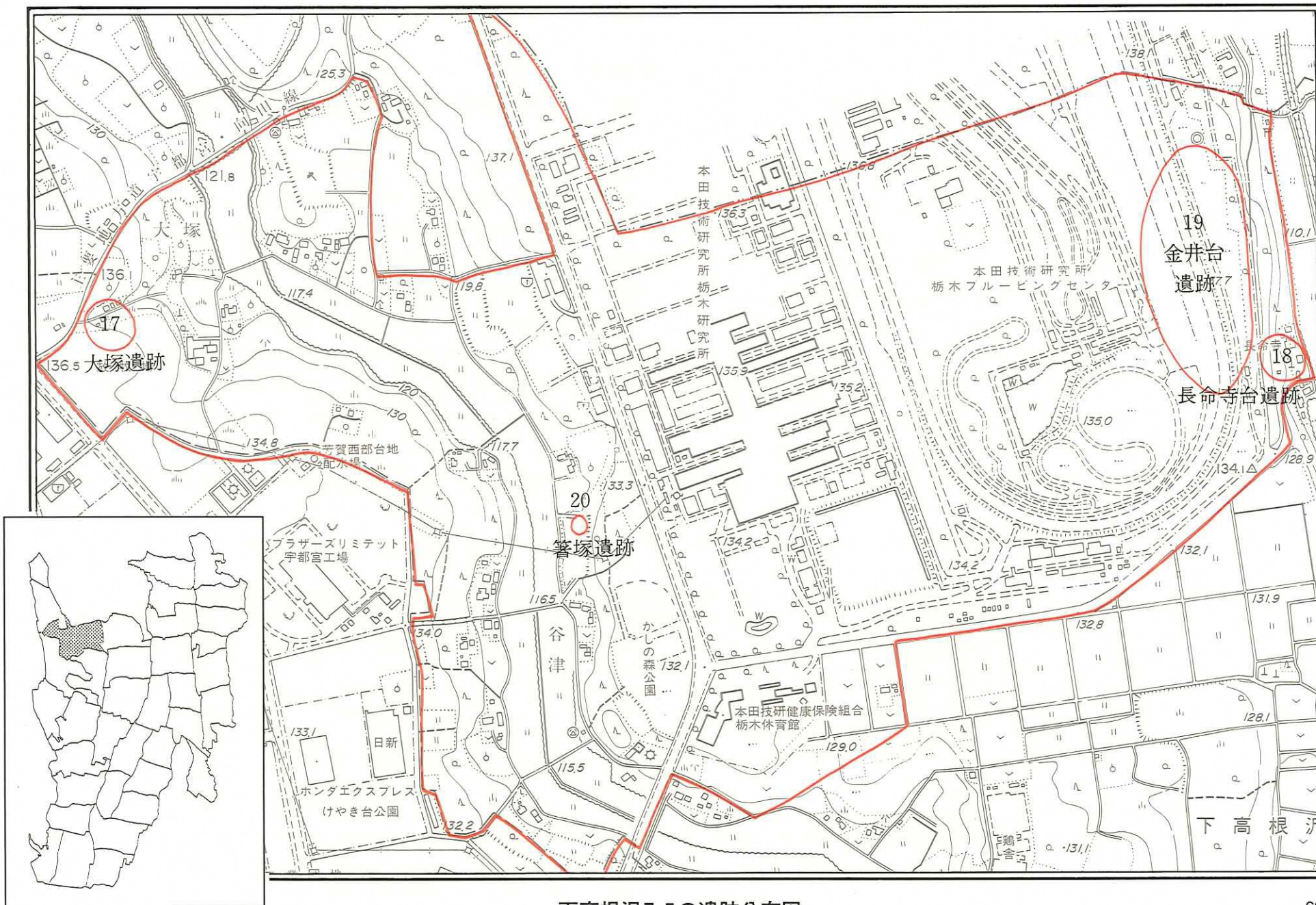
下高根沢 7-5 は芳賀町域の北西部にあたり、野元川右岸、宝積寺台地上に立地する。東側は芳賀・高根沢工業団地、本田技研研究所である。

本地域には、大塚遺跡・金井台遺跡・箸塚遺跡・長命寺台遺跡が周知の遺跡として存在している。既にかかなりの部分に開発が及んでいるため、今回は新たな遺跡を確認することはできなかった。次に主要な遺跡の紹介をしたい。

金井台遺跡は、野元川右岸宝積寺台地上に位置する縄文中期の集落跡である。昭和 44 年芳賀町教育委員会により発掘調査が行われ、その後 51 年にも本田技研進出に伴う事前調査が行われ、多数の袋状土坑や竪穴住居跡が発見された（塙 1970）。袋状土坑の構築時期は中期加曽利 E I 式期であり、近隣では本町の弁天池遺跡・市貝町添野遺跡・高根沢町石神遺跡・宇都宮市竹下遺跡などが同時期のものである。遺物は、土坑群在箇所から石鏃・打製石斧・磨製石斧・敲石・磨石などの石器が少量と、加曽利 E I 式期を主体に阿玉台式・加曽利 E II 式・同 E III 式期、後期の堀之内 I 式土器などが出土している。本遺跡は、前述の弁天池遺跡と距離的・時期的に近くに存在しながら、弁天池遺跡で多く確認された東北地方の大木式土器の要素が少なく、土器の器形・文様にかかなりの差がみられるのが特徴的である（塙 1983）。

（大沼正代）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
17	大塚遺跡	下高根沢字大塚		○						集落跡	丘陵	畑
18	長命寺台遺跡	下高根沢字長命寺台		○		○	○			集落跡	台地	畑
19	金井台遺跡	下高根沢字金井台		○		○	○			集落跡	台地	畑
20	箸塚遺跡	下高根沢字箸塚		○		○	○			集落跡	台地	畑



下高根沢7-5の遺跡分布図

27. 下高根沢 7-4 の遺跡

下高根沢 7-4 は芳賀町中央部より北西に位置し、宝積寺台地と五行川低地の界に位置している。

本地区では周知の遺跡として別所台古墳群・和讃塚古墳・土塔塚墳墓群・別所台塚群・別所台館跡があり、新発見の遺跡として宮田上遺跡・大久保北遺跡・大久保南遺跡・東島遺跡がある。

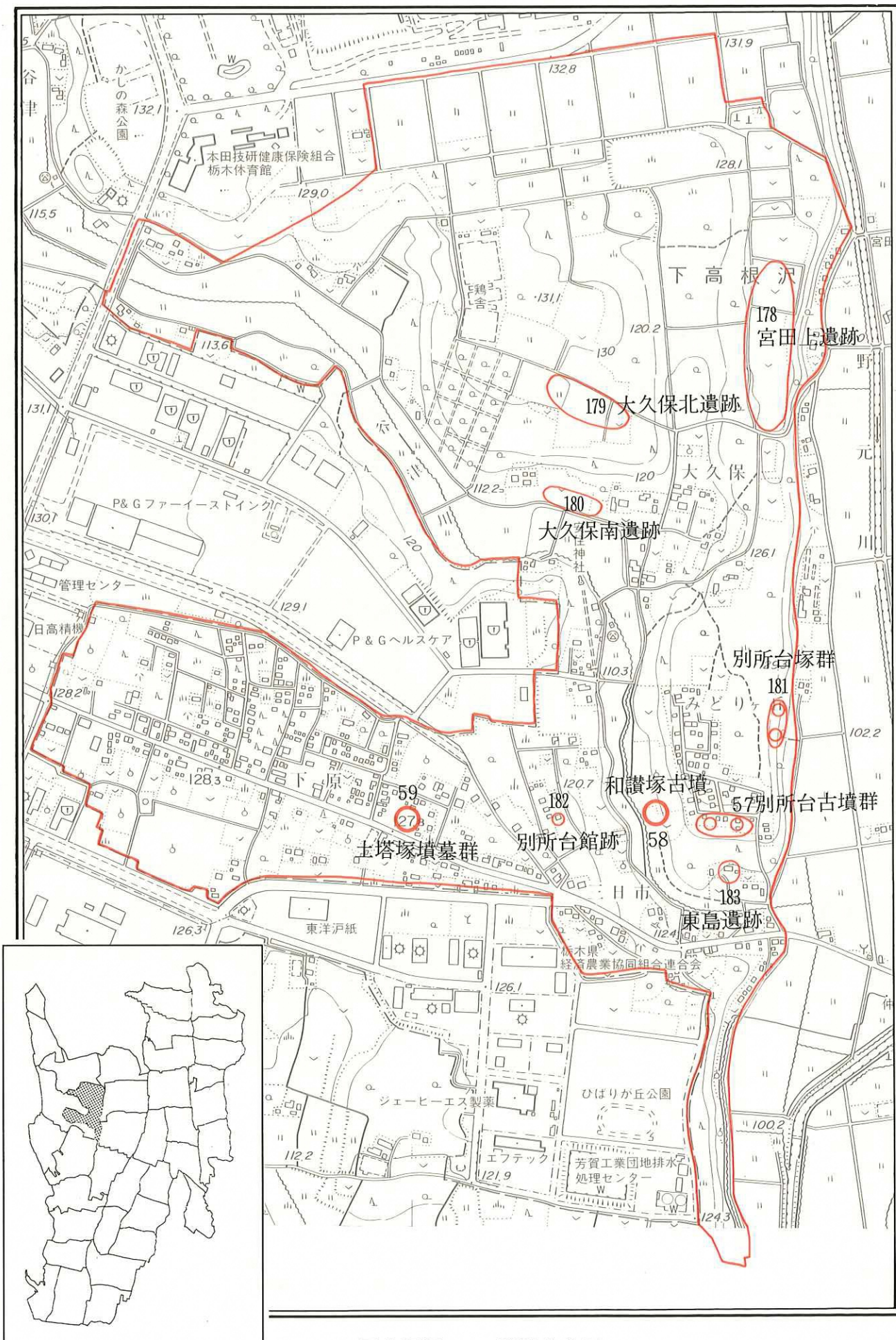
別所台古墳群は円墳 10 基からなる古墳群で、野元川の支流谷津川沿岸の台地上に立地する。直径 40m、高さ 5 m の比較的大形な円墳を主墳とし、直径 10m、高さ 2 m 程度の小形な円墳 9 基で古墳群を形成している。本古墳群は発掘調査等行われていないため、内容は不明であるが、群構成をとることより、古墳時代後期と思われる（埴 1983）。和讃塚古墳は円墳であり、前述した別所台古墳群と隣接しており、広義の別所台古墳群を形成している（埴 1983）。

土塔塚墳墓群は初め円墳 5 基からなる古墳群とされていたが、1987 年の町教育委員会による発掘調査によって近世の墳墓群と判明した。墳墓は 1～3 号墓があり、1 号墓は一辺 12m の正方形の平面プランを呈し、高さは 2.4m である。墳頂に一辺 2 m の平坦面があり、埋葬施設は墳丘ほぼ中央で、墳頂下 1.7m にあり、直径 65 cm の不整形円形を呈する深さ約 45 cm の土坑であり、男性人骨が納められていた。出土遺物は埋葬施設内、墳丘面、盛土内から美濃焼の天目茶碗、土師質土器、古銭（古寛永通寶）、鉄釘、脇差、不明鉄製品、硯がある。古銭から築造年代を 17 世紀後半としている。2 号墓は長軸 4.7m、短軸 4.1m の不整形円形で、高さは 70 cm である。2 号墓からは築造年代を推し量る遺物は出土していない。3 号墓はすでに湮滅しており、墳丘については不明であるが、芳賀町郷土資料館に遺物が所蔵されている。遺物は青銅製錫杖、煙管、硯、砥石、古銭（寛永通宝、太平通宝、淳化元宝、至和通宝）である。煙管から築造年代を 1 号墓より後出する 18 世紀初頭としている（宮崎 1989 a）。

別所台塚群については詳細は不明であるが、前述した土塔塚墳墓群と同様近世の塚群と思われる。別所台館跡は下高根沢・安住神社の南東にあり、詳細については不明である。

新発見の遺跡は縄文、古墳、奈良・平安、中・近世と多岐にわたる。遺物も縄文土器・土師器・須恵器・中世陶器・近世陶器を採集している。（塩谷慎介）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
57	別所台古墳群	下高根沢字別所台				○				古墳群	台地	畑
58	和讃塚古墳	下高根沢字三日市				○				古墳群	台地	畑
59	土塔塚墳墓群	下高根沢字下原							○	塚群	台地	山林
178	宮田上遺跡	下高根沢字宮田上4242～4259		○			○	○	○	散布地	台地	田・畑
179	大久保北遺跡	下高根沢字大久保4280～4297					○			散布地	台地	畑
180	大久保南遺跡	下高根沢字大久保4186～4190		○			○			散布地	台地	畑
181	別所台塚群	下高根沢字							○	塚群		
182	別所台館跡	下高根沢字						○		城館跡		
183	東島遺跡	下高根沢字東島3992					○	○		散布地	台地	



下高根沢7-4の遺跡分布図

28. 芳賀工業団地の遺跡

芳賀工業団地は、下高根沢にあり、野元川に沿って南北に走る宝積寺台地の東端に位置する。現在は工業用地となっている。

本地域には縄文時代から平安時代にかけての大規模な集落跡である免の内台遺跡、縄文時代前期の下原遺跡の2つが所在している。今回の調査で新しく三日市遺跡・ひばりが丘公園北遺跡の2遺跡が確認できた。

免の内台遺跡は、芳賀町の中心祖母井西方3kmに所在し、鬼怒川東岸の南北に延びる宝積寺段丘東縁に位置する古代の大規模な集落跡として著名である。昭和54年の芳賀町教育委員会による遺跡範囲確認調査では、縄文時代から平安時代に至るまでの各時代の遺物を検出した。断続的ではあるが、長期にわたって集落が形成されていたことがわかった。縄文時代では中期の阿玉台式期から加曽利E式期にかけての住居跡7軒、土坑203基が確認されている。弥生時代では中期の再埋葬と後期の二軒屋式土器、十王台式土器などが僅かではあるが出土した。古墳時代では住居跡50軒が確認され、土師器・須恵器・耳環・鋤先などが出土した。奈良から平安時代では住居跡194軒が確認され、土師器・須恵器・紡錘車・刀子・鎌などが多量に出土した。工業団地内だけで遺跡の範囲が東西250m、南北600mある大遺跡である（石川 1980、山武考古学研究所 1992）。

下原遺跡は、芳賀町下高根沢字下原にある。県道北側に並塚が所在するが、その西畑の小範囲に遺物が散布し、縄文時代前期の諸磯式土器が出土している。本町出土の土器としては古い時期に属する（埴 1963）。

三日市遺跡は、野元川右岸の宝積寺段丘東端に立地する奈良・平安時代の遺跡で、ひばりが丘北遺跡の延長と考えられる。ひばりが丘北遺跡は、野元川を望む宝積寺段丘東端に位置する奈良・平安時代を中心とした遺跡である。免の内台遺跡と同一の遺跡と考えられる。両遺跡とも土師器片が確認された。（大島美智子）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
8	免の内台遺跡	東水沼字免の内台		○	○	○	○			集落跡	台地	畑
21	下原遺跡	下高根沢字下原		○		○	○			集落跡	丘陵	畑
184	三日市遺跡						○			散布地	台地	畑
232	ひばりが丘公園北遺跡	東水沼字					○			集落跡	段丘	畑

